

# 『トキと人の共生を目指した水辺づくり座談会』

## 第5回 開催報告



### 実施の概要

開催日時：平成21年5月21日（金） 18:30～20:30

参加者：総勢50名（住民27名、学識者2名、関係機関5名、報道機関1名、事務局等15名）

座談会進行役：桑子敏雄（東京工業大学大学院 社会理工学研究科 教授）

### 座談会の内容

座談会では、下記の内容についてみんなで話し合いました。

河口域の自然再生による治水安全度  
下流の右岸導流堤の撤去と河口浚渫  
河口ビオトープの下流霞堤案



座談会が議論の場です！

自然再生の意義とは・・・



### 天王川河口部自然再生 形状(案)



島谷先生（九州大学教授）から、「自然再生の意義」や「治水と河川環境」についてわかりやすく説明をしていただきました。



川づくりの手本となるよう頑張りましょう！

参加者のみなさんから天王川河口部自然再生に関してたくさんの意見をいただきました。



一歩一歩進むことが重要！

### 1. 全会一致で承認したこと

どの河口部改修案も、治水の安全度には問題が生じないということ。

河口部を浚渫すること（6月に着手）。また、右岸側導流堤の撤去および内湖堤防の整備については、関係住民の合意の上、最適な形を選択すること。

天王川とビオトープの連結形態については、堤防の強化等で治水に問題が生じないように配慮し、霞堤とすること。ただし、関係住民の合意を求めること。

水辺の利活用については、次回の座談会で議論するということ。

### 2. 確認したこと

天王川再生は、全国の中小河川再生の最先端事業であること。河口部の再生は、先端的事例となること。開かれた場での住民の討論において事業は進められること。天王川座談会は、事業内容についての決定の場であること。

潟上地区の地権者等の関係者との話し合いをきちんと進めること。（ただし、事業の決定についての話し合いはあくまで座談会なので、意見は、座談会で発言してもらうようにすること。）

### 問い合わせ先

新潟県佐渡地域振興局地域整備部 担当 佐々木（計画調整課）

TEL：0259-74-4040

FAX：0259-74-2048

Email：sasaki.tadashi2@pref.niigata.lg.jp

## みなさんの意見

座談会では、活発な話し合いが展開されました。主な話し合いは次の通りです。



### 議題1：河口域の自然再生による治水安全度について

事務局の説明 自然再生によって河口から約300m区間で治水安全度が向上します

Q：洪水時の加茂湖水位はどのように設定しているの？（地域住民）

A：両津港観測潮位の朔望平均満潮位(各月最高満潮位の平均値)を使用しています（事務局）

Q：加茂湖は海への出口が狭いので両津港に比べて水位が上がりやすいと思います（地域住民）

A：今後、現地調査を実施し、天王川河口部の水位変動について確認します（事務局）

### 議題2：下流の右岸導流堤の除去と河口掘削について

事務局の説明 湿地が自然の力で形成されるように広い空間を確保します  
河口域の堆積土砂は除去し、水質浄化と水位低下を図ります

目標とする姿(貝喰川河口)



Q：河口部で漁をしている人がいますが、影響等がないか心配しています（地域住民）

A：まず漁業等の現状把握に努めたいと思います（事務局）

Q：天王川東側では土砂堆積が多いので、東側の堤防は整備して欲しい（地域住民）

A：最初は整備せず、土砂堆積状況を調査したいと考えています。堆積が広がる傾向の場合には、整備を考えたいと思います（事務局）

**今後、河口部に堆積している土砂の(一部)撤去を実施します(別途説明会開催)**

### 議題3：河口ビオトープの下流霞堤案について

事務局の説明 上流への水位の上昇を抑え、ビオトープの水循環を図ります  
浚渫した土を利用して、堤防を強化したらどうかと考えています

ビオトープの現状



Q：ビオトープ内の水質が悪化しませんか？（地域住民）

A：ビオトープには農業用水余剰水の流入や加茂湖の潮位変動があるので、水質は悪化しないと考えています（事務局）

Q：周辺の地権者との合意が必要だと思います（地域住民）

A：地権者とも意見交換をしていく必要がありますね（桑子先生）